

議員（門 秀俊）

5番、門 秀俊、一般質問をさせていただきます。

1. 消防本部の運用について。2. まちのコイン「どつつ」について、一問一答方式でよろしくお願い致します。

消防本部の運用について、消防職員は、地域の住民を火災や事故、災害などから守る役目を担っており、勤務は激務で危険が身近にある職業であると考えております。

年々救急件数は増加しており、総務省において令和4年には全国で700万件以上の救急車の利用があったと公表しております。また、新型コロナウイルス感染症の感染症患者の対応で医療機関は逼迫し、救急患者の受入れが可能な医療機関を探すために時間を要するなど救急搬送困難事案が多く発生していました。救急搬送困難事案とは、病院の問合せ件数が4件以上、かつ、現場滞在時間が30分以上のことです。さらに、医療従事者や救急隊に多くの負担が発生したことは周知の事実であります。

本町においても例外ではなく、救急搬送困難事案の多発や職員とその家族に感染症が多発する状況下において、救急出動増加により勤務人員を確保する体制をとることがかなり難しく、職員の負担が大きかったのではないのでしょうか。

そこで質問致します。1. 本町において、増加する救急出動や新型コロナウイルス感染症対策の感染者に対応するため、どのような体制をとって運用していたのかお伺い致します。

消防長（青木 孝一）

門議員の本町において、増加する救急出動や新型コロナウイルス感染症の感染者に対応するため、どのような体制をとっているかについてのご質問に答弁をさせていただきます。

消防本部では、2隊の救急隊を運用しております。ここ10年間は、年間救急出動件数が1,000件前後を推移し、昨年は1,020件となりました。そして、今年も、昨年の同時期を100件ほど上回る出動状況となっており、出動件数及び搬送困難事案等による活動時間の増加により重複救急出動が増加し、出動により不足する人員を非番職員の招集で対応しております。

次に、新型コロナウイルス感染症への救急隊の感染対策として、第5類への移行後も第2類同様に感染防止衣の上下着用、N95マスク、ゴーグル、手袋を着用して出動し、救急患者及び救急隊員の感染防護対策を行っております。なお、救急出動帰署後は、車内の消毒、アルコールでの拭き上げ等を行い、次の出動に備えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

再質問致します。先ほどの答弁にございました重複救急出動件数及び昨年との比

較をよろしくお願い致します。

消防長（青木 孝一）

門議員の重複救急出動件数及び昨年との比較についての再質問に答弁をさせていただきます。

今年8月末日までの重複救急出動件数は748件中119件となり、昨年の71件から48件の増加となっております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

再々質問させていただきます。重複救急出動によって非番職員が招集されております。救急における非番職員の現状は、回数と人数をお願い致します。

消防長（青木 孝一）

門議員の救急における非番職員の現状について、その再々質問に答弁させていただきます。

今年8月末日までの非番職員の招集回数は、重複救急出動件数の119回となり、非番職員の招集延べ人数は244名でございます。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

有難うございます。次の質問に入ります。熱中症及び新型コロナウイルス感染症対策の緊急事情についてお伺い致します。

比較的過ごしやすい日の多かった昨年とは異なり、今年は最高気温が35度を超える猛暑日が7月に入ってから各地で相次ぎ、現在も気温は高く、下がる気配を感じない状況が続いております。また新型コロナウイルス感染症対策の感染者におきましても厚生労働省において、令和5年8月20日現在で、累計で約8万人以上の報告があると公表しております。2類感染症から5類に移行したとはいえ、医療従事者や救急隊にとっては大きな負担となっていると考えております。

そこで質問致します。本町における熱中症患者及び新型コロナウイルス感染症対策の救急出動件数について、疑いを含め、発生状況を昨年と比較を併せてお伺い致します。

消防長（青木 孝一）

門議員の本町における熱中症患者及び疑いを含む新型コロナウイルス感染症に伴う救急件数と昨年との発生状況の比較についての質問に答弁をさせていただきます。今年度8月末日までの熱中症疑いを含む救急搬送件数は39件で、昨年の22件と比べ、17件の増加となっております。また、今年度8月末日までの新型コロナウイルス感染症に伴う感染症疑いを含む救急出動については185件で、昨年の133件と比べ、52件の増加となっております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

有難うございます。次の質問に入ります。

救急車の整備状況についてお伺い致します。本町におきましても多くの救急患者が

発生し、毎日のように救急車を見かけることから、救急車の需要が多いと感じております。また、救急需要対策に関する検討会において、今後、高齢化の一層の進展や環境、生活様式の変化を背景として、より一層の救急需要の増加が見込まれると示されております。関係各所において、今後も継続的に対応策を検討する必要があるとともに対応策を実行することが必要だと考えております。

それでは質問致します。本町における現在の救急車の配備状況と今後における整備計画等をお伺い致します。

消防長（青木 孝一）

門議員の本町における救急車の配備状況と今後における整備計画等についてのご質問に答弁をさせていただきます。

本町には、平成20年式と平成29年式の2台の救急車を配備し、2隊の救急隊を運用して多度津管内の救急出動に対応しております。

次に整備計画ですが、救急車の更新予定は15年を目安とし、消防本部車両更新計画を基に、担当係で救急業務実施基準に基づき、仕様、艤装計画等を綿密に作成し、車両寄贈の申込みや有利な補助金、事業債を考慮して整備計画を立てております。なお、直近の更新予定は、平成20年式の救急2号車となっております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

再質問致します。15年目の目安という救急2号車の現状は、どのような状態でしょうか、お伺い致します。

消防長（青木 孝一）

門議員の救急2号車の現状についての再質問に答弁をさせていただきます。

救急2号車は、日産製の高規格救急車であります。平成20年3月14日に配備され、今年で15年目を迎える車両でございます。運用実績としましては、約8,000件の救急出動、約7,200時間活動し、およそ7,900名の救急患者を搬送し、現在も町民からの救急要請に第一線で活用しております。しかし、車両の医療資機材については日々日常点検整備を行っておりますが、経年劣化による故障や部品調達が困難な機材も出てきているため、毎月、先発出場車両のローテーションを行い、2台の救急車が偏りなく運用整備することで、救急車の安全運行に努めております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

有難うございます。次の質問に入ります。

救急件数の増加に伴う今後の対応について救急件数は年々増加傾向にある中、令和2年度の救急件数は一時的に減少しています。その理由として、新型コロナウイルス感染症対策の拡大に伴う衛生意識の向上や不要不急の外出自粛の呼びかけなどの啓発が関係していると考えております。つまり、救急件数増加の対策として、救急

に対する知識の普及とソフト面の取組面もハード面の整備と同様に、円滑な救急活動に繋がるのではないかと感じております。

そこで質問します。現在の普及啓発活動と今後のソフト面の取組について、お伺い致します。

消防長（青木 孝一）

門議員の救急出動増加に対する普及啓発活動と今後のソフト面の取組についてのご質問に答弁をさせていただきます。

高齢化率の増加や住民の救急要求水準の高まりから、今後も救急要請は増加傾向になると考えております。しかし、限られた消防救急資源を適切に運用していくためには、議員のおっしゃる住民への救急に対する知識の普及は安易な救急要請の減少に大きく関与すると思われまます。コロナ禍にあった3年間は思うように各事業所への訓練指導等が出来ていなかったことを踏まえ、さらに普通救命講習や応急救護訓練指導等を行い、救急車の適正な利用を呼びかけ、本当に緊急に必要な方が救急車を利用出来るように啓発活動及び救急広報に取り組んでまいりたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

有難うございます。消防の職員は、皆さんは目いっぱいの勤務状況だと思えます。

救急対応は予告なく発生します。町長がよく言うお言葉で、町民の安心安全の最前線の現場だと思えます。今後の職員数の見直しが必要だと考えています。今後のご検討をよろしくお願い致します。

次の質問に入ります。まちのコイン「どっつ」についてです。

まちのコイン「どっつ」は令和4年2月より運用が開始されており、約1年半が経ちました。私が昨年6月の定例議会で一般質問をしましたが、そのあとの経過について再度質問させていただきます。

本町でのまちのコイン「どっつ」のスタートは人と人が繋がる桜咲く町というテーマでスタートしました。担当の方の色々なイベントでのPR活動もたくさん目にしてきました。イベントでは、土・日・祝日に拘わらずPRイベントを盛り上げ奮闘されていました。頭の下がる思いです。大変ご苦労様でした。しかし、私の周りを見ると、まだまだ浸透していないような気がします。「どっつ」の利用者は、町内や町外の人でも利用出来ます。多度津の輝き総合戦略にはまちのコイン「どっつ」について追加指標が出ていたと思えます。

それでは質問に入ります。現在の利用者数、スポット数及び「どっつ」の利用状況が分かる数値をお示し下さい。よろしくお願い致します。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員のまちのコイン「どっつ」の現在の利用者数、スポット数及び利用状況に

ついてのご質問に答弁をさせていただきます。

まちのコイン「どっつ」は、コミュニティ通貨と呼ばれるスマートフォンやタブレット端末で利用出来るアプリで、令和4年2月に導入致しました。利用者はボランティア活動や様々なお手伝いに参加することで、「どっつ」を受け取り、貯めた「どっつ」を使うことで、特別な体験等に参加することが出来ます。

議員ご質問のまちのコイン「どっつ」の利用者数等については、令和5年8月末現在の数値でご報告をさせていただきます。まず、利用者数につきましては1,177人です。次に、スポットと呼ばれる「どっつ」が利用出来る町内のお店、企業、団体等の数は62スポットです。最後に「どっつ」の利用状況と致しまして、ボランティア活動への参加やお手伝いなど、もらう体験の累計利用回数は4,926回で、57万4,949「どっつ」が使われています。特別な体験等に参加することが出来る、あげる体験の累計利用回数は346回で、6万8,150「どっつ」が使われています。その他に、利用者やスポットに対して感謝の気持ちを込めて、「どっつ」を贈ることが出来る機能の利用回数は261回で、4万801「どっつ」が使われています。また、町からスポットへの「どっつ」の配布や利用者が各種条件を達した際に受け取れるボーナスなども含めた総流通量は、888万8,491「どっつ」となっています。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

再質問致します。「どっつ」利用者の年代別が分かるか、お答え下さい。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員の利用者数の年代別内訳についての再質問に答弁をさせていただきます。

利用者数の年代別の内訳につきましては、アプリ登録時に生まれた年代を任意で選択して頂いております。例えば、1990年代で登録されますと24歳から33歳といった間で集計されることとなりますので、少し中途半端な年齢構成での報告となることをご了承下さい。また、利用者1,177人のうち、無回答であった475人を除いた702人の年代別の内訳となります。まず4歳から13歳が2人、14歳から23歳が63人、24歳から33歳が98人、34歳から43歳が156人、44歳から53歳が179人、54歳から63歳が102人、64歳から73歳が82人、74歳から83歳が16人、84歳から93歳が4人でございます。最も利用者の多い年代は44歳から53歳となっております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

有難うございます。もう少し若い世代が多いのかなと思ったんですけど、これからの課題として、またよろしくお願い致します。

次の質問に入ります。利用促進のために、ふだん力を入れていることを教えて下さい。お願い致します。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員の利用促進のために、ふだん力を入れていることについてのご質問に答弁をさせていただきます。

「どっつ」の利用促進のために、ふだん力を入れていることは、大きく2点あります。1点目が利用者の増加を図るために、利用方法や魅力が伝わるような情報発信及びイベントでの利用促進に力を入れております。情報発信につきましては、新スポットや新機能の情報、イベント情報などを町ホームページやSNS、アプリのお知らせ機能などで発信しております。イベントでの利用促進につきましては、議員のご質問にもありましたとおり、町が主催するイベントだけではなく、多度津商工産業フェアや第4土曜は本町デーなど、民間主催の町内イベントでも利用して頂くとともに、「どっつ」自体のPRブースを用意して頂けた場合には、町担当職員が、アプリのインストールなどの支援などを行っております。2点目がスポット等の増加を図るために、町内の店舗、企業、団体等へ訪問や自治会に対しての出前講座での説明、スポット同士の意見交換会などを行っております。その中で、「どっつ」を利用する際の疑問点を聞き取り、解決策の共有や利用促進に繋がるような企画アイデアをご提案頂いております。また、まちのコインは、全国の他市町及び団体でも導入されておりますので、そういった他地域の方々と定期的にオンラインミーティングを行い、先進事例の共有なども行っております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

再質問致します。全国の参加団体で、まちのコインを導入しているのはどれくらいか。また、本町導入後、いくらぐらい増えたか、ご答弁お願い致します。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員のまちのコインを導入している地域及び団体の増加状況についての再質問に答弁をさせていただきます。

まず、本町が導入する前に既に導入していた地域及び団体数は15地域でございました。その後、本町を含めて8地域増加しているため、現在導入している地域及び団体数の合計は23地域となっております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

次の質問に入ります。「どっつ」を利用することで、町としてはどのような目標を達成したいのか教えて下さい。

政策観光課長（土井 真誠）

門議員の「どっつ」を利用することで達成したい目標についてのご質問に答弁をさせていただきます。

まず、本町が「どっつ」を導入した目的は、地域内外の人やお店、団体同士の繋がりの強化や関係人口と呼ばれる定住には至らないものの特定の地域に継続的に多様な形で関わる方々を創出し、本町に深く関わる人やファンが増えることにより、人

口減少等による地域力の低下の改善やコロナでダメージを受けた地域経済や地域コミュニティを回復させることで、将来にわたって持続可能な町をつくるためでございます。「どっつ」は、その目的を達成するための手段の一つであると考えており、議員のご質問にもありますとおり第2期たどつの輝き創生総合戦略における数値目標であるKPIとして、利用者数を令和6年度末までに2,000人にすることを掲げております。引き続き、町内外の方々が、本町に関わるきっかけとして、「どっつ」を利用して頂けるよう努めてまいります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

有難うございます。次の質問に入ります。

目標達成に向けた課題と今後予定している対応をお示し下さい。よろしくお願い致します。

町長（丸尾 幸雄）

門議員の目標達成に向けた課題と今後予定している対応についてのご質問に答弁をさせていただきます。

議員のご質問にもありますとおり、「どっつ」は、まだまだ浸透しているとは言えない状況であることが大きな課題であると考えております。

その課題解決に向けた対応は、大きく2点あると考えております。

1点目は、利用者を増やすための対応です。これまでも利用者を増やすための取組は行っておりますが、今後はイベントでの継続的な利用者の利用の促進や香川大学たどつまちLaboと協力して、「どっつ」の利用イメージが伝わる動画の作成及びSNS等への投稿による情報発信やふるさと納税の寄附者を初めとした本町と繋がりのある方々への周知、また、高齢者のスマホ教室等において「どっつ」の利用方法を説明するなど、様々な手法を検討しております。

2点目は、スポット数と魅力的な体験を増やすための対応です。スポット数の増加につきましては、これまで以上に幅広く、特に人が日常的に集まるような店舗、企業、団体等への訪問を実施するとともに、現在、利用の少ない自治会や地域活動団体等への利用を促進してまいりたいと考えております。魅力的な体験につきましては、もらう体験、あげる体験ともに、気軽に参加できる体験を増やしていくとともに、特にあげる体験として、日常生活や単なる観光業で味わえない楽しさを感じられる体験や少しお得感を感じられるような体験など、魅力が伝わりやすい体験を増やしていきたいと考えております。

その他にも、先ほど答弁させていただきましたとおり、他市町でもまちのコインを導入している地域があり、そういった地域の特産品等が当たる抽せん会や利用者同士でコミュニケーションをとることが出来るメッセージ機能など、アプリ上での気軽な利用が出来る機能もありますので、各種利用方法の周知に努めてまいります。

また、先日実施致しましたスポットの皆様との意見交換会の中では、集中的に利用

頻度を高めるために、利用回数等を利用者同士で競うグランプリの開催やグルメや健康をテーマとしたスタンプラリーの開催などのアイデアを頂きましたので、実現に向けてスポットの皆様と協力しながら、まちのコイン「どっつ」の普及促進に努めてまいります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

有難うございます。このまちのコイン「どっつ」は、スマホアプリを利用ということで理解しにくいと思われがちですが、利用してみれば、それほど難しくないとはいえます。

今後の普及促進について努めて下さるようお願いを申し上げます。

以上で、一般質問を終わらせて頂きます。有難うございます。